

H3ロケット

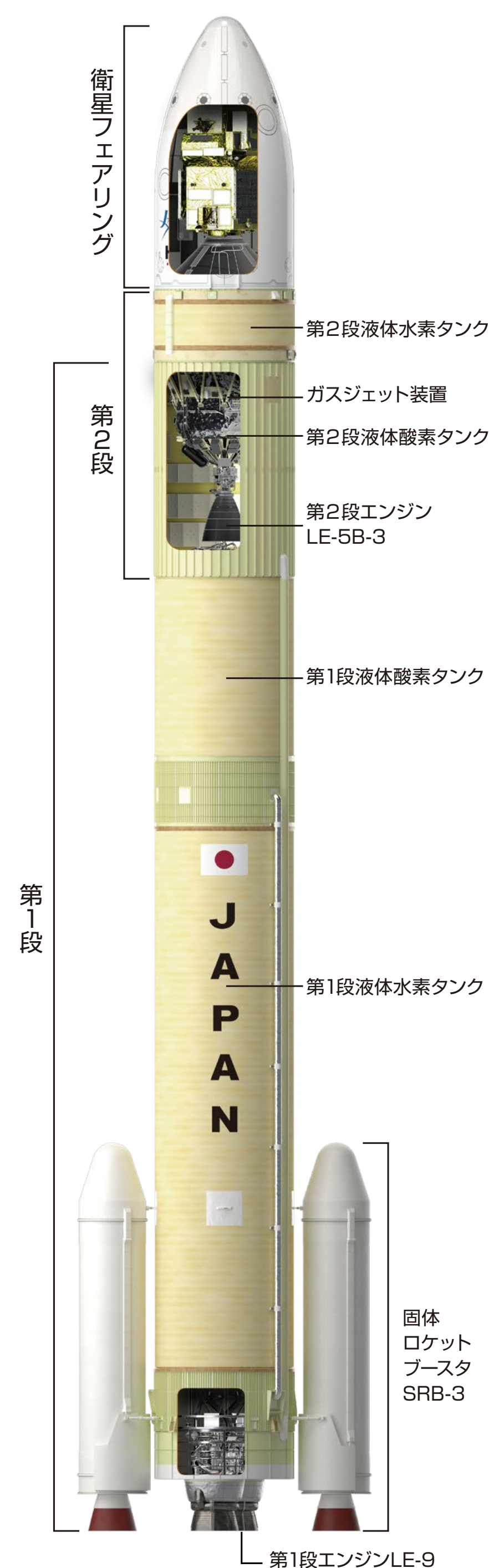


日本の技術で、宇宙輸送をリードせよ。

H3ロケットは、種子島宇宙センターから試験機1号機の打ち上げを予定している次世代の大型ロケットです。日本が宇宙への輸送手段を持ち続けられるように、現在運用中のH-IIAロケットの後継機として開発されています。

今後20年間を見据え、毎年6機程度を安定して打ち上げることで産業基盤を維持するという運用の世界を目指しています。そのためには、政府の衛星だけでなく打ち上げサービス市場から民間の商業衛星の受注が不可欠です。世界中で新しいロケットが開発される中、商業衛星に利用してもらうためには、日本国内だけでなく世界中の利用者から使いやすいロケットとして注目されるような新しいロケットを作る必要があります。H3ロケットは今後の世界でどのようなロケットが必要になるかを調査・予測し、それに応えるロケットとして、柔軟性・高信頼性・低価格の3つの要素を実現します。

JAXAは日本の企業と総力を結集して、この新しいロケットの開発に取り組んでいます。



使いやすいロケットを目指して

H3ロケットは2020年度以降の世界でどのようなロケットが必要になるかを調査・予測し、それに応えるロケットとして、柔軟性・高信頼性・低価格の3つの要素を実現します。

柔軟性

複数の機体形態を準備し、利用用途にあった価格・能力のロケットを提供します。打ち上げまでの期間短縮により、「すぐに打ち上げたい」という利用者の声に応えます。

高信頼性

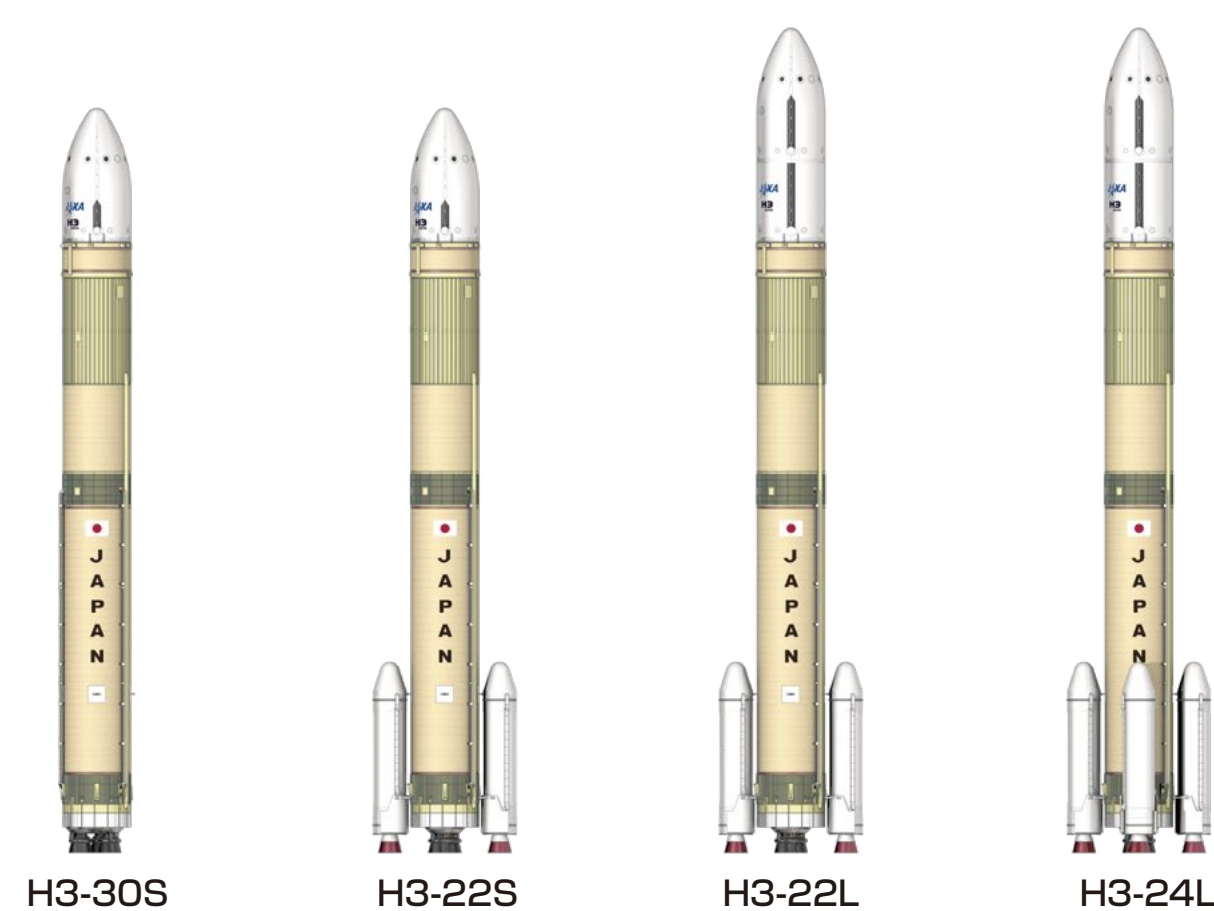
H-IIAロケットの高い打ち上げ成功率を継承し、確実に打ち上がるロケットにします。

低価格

H-IIAロケットから打ち上げ価格を低減します。

過去最大のパワーと多様な機体形態

H3ロケットは2種類のフェアリング、第1段エンジン (LE-9) 2基または3基、固体ロケットブースタ (SRB-3) 0本、2本、4本の切り換えにより、様々な大きさや軌道の人工衛星の打ち上げに対応します。静止トランスファ軌道への打ち上げ能力は、これまでのH-IIAロケット、H-IIBロケットの能力を上回る過去最大に設定しています。



●主要諸元

全長	63m	
外径	5.2m	
打ち上げ能力	静止トランスファ軌道に6.5トン以上	
全備質量	574トン(H3-24L)	
フェアリング	ショートタイプ(S)、ロングタイプ(L)	
第2段エンジン	LE-5B-3(1基)	推力: 137kn(1基あたり)
第1段エンジン	LE-9(2基/3基)	推力: 1472kn(1基あたり)
固体ロケットブースタ	SRB-3(0本/2本/4本)	推力: 2158kn(1基あたり)